

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
経専北海道保育専門学校		昭和55年11月5日		中田靖泰		〒005-0004 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-812-9626																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人経専学園		昭和48年4月24日		倉田 恵		〒005-0003 札幌市南区澄川3条6丁目 (電話) 011-824-1000																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども未来学科		平成二十三年文部科学省 告示第百六十七号																					
学科の目的	保育・幼児教育に関する幅広い専門知識とより高い保育技術を習得させるとともに、明るく意欲的、かつ感性豊かな人間性をもち、現場に即応できる人材育成を目指す																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
	3	131単位	37単位	120単位	13単位	0単位	1単位																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
160人	103人	0人	9人	60人	69人																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学則第9条により優、良、可、不可																				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月～9月 4週以内 ■冬季:12月～1月 3週以内 ■学年末:2月授業終了から3月31日			卒業・進級 条件	学則第21条による 卒業判定会議及び進級判定会議で決定																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談実施			課外活動	■課外活動の種類 絵本読み聞かせボランティア ■サークル活動: 有																				
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 保育園、幼稚園、認定こども園、福祉施設等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 履歴書指導、個別面接指導、就職指導の授業、就職ガイダンス、就職セミナー等				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>63人</td> <td>62人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>63人</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>①</td> <td>63人</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>折紙講師資格</td> <td>②</td> <td>63人</td> <td>63人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士	①	63人	62人	幼稚園教諭二種免許	①	63人	60人	社会福祉主事任用資格	①	63人	60人	折紙講師資格	②
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
保育士	①	63人	62人																						
幼稚園教諭二種免許	①	63人	60人																						
社会福祉主事任用資格	①	63人	60人																						
折紙講師資格	②	63人	63人																						
■卒業業者数 63 人 ■就職希望者数 62 人 ■就職者数 62 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 98.4 % ■その他 ・卒業後結婚 1人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄																						
(平成 28年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)																									
中途退学の 現状	■中途退学者 4名 平成28年4月1日時点において、在学者147名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者143名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、身体的理由等 ■中退防止・中退者支援のための取組 年度当初に目標設定し、毎週の職員会議にて情報共有、対策検討			■中退率 2.7 %																					
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 入学時の奨学生試験にて3つのランクで奨学生を選出(全受験者の20%程度)特待生300,000円授業料免除、給費生150,000円授業料免除、特別推薦生100,000円授業料免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科の ホームページ URL	http:keisen-hoiku.com																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業業者数のうち就職者総数の割合をいいます。  
②「就職」とは給料、資金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施する。  
 ・実践的な設備の充実と早期からの多様な実習による「基本的な知識、技能の習得」  
 ・業界講演会や卒業生による職業体験談を通しての「キャリアプランニング能力の育成」  
 ・年間2回開催する「教育課程編成委員会」によるキャリア教育における実習等の状況の振り返りと教育活動の評価・改善の実施

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は学校長のもとに位置付け、教育課程編成委員会で企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図る。決定事項は部長を通じ、教務主任から教務へと周知し教務全体で意思統一を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田元照	一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会 会長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	①
今野路子	こども園・ひかりのこ さっぽろ 園長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
五十嵐京湖	ふとみ保育所 園長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
鈴木 朗	経専北海道保育専門学校 部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
若松幹子	経専北海道保育専門学校 部長代理	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
沢向則子	経専北海道保育専門学校 こども学科	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
中谷摩美	経専北海道保育専門学校 こども未来学科	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成25年11月22日 14:00～15:00	第6回 平成28年6月28日 14:00～15:00
第2回 平成26年1月24日 14:00～14:45	第7回 平成28年11月15日 13:30～14:30
第3回 平成26年12月1日 15:00～16:00	第8回 平成29年7月28日 15:00～16:40
第4回 平成27年6月11日 13:30～14:30	
第5回 平成27年10月7日 13:30～14:50	

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

保育技術を応用するため、保育現場で実践する「こども演習」のカリキュラムに活用した

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育士資格及び幼稚園教諭免許に必要な知識を学ぶことはもとより、現場で活躍している講師から実際の保育現場で行われている保育内容について学び理解を深める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

保育園の園長による「保育内容総論」の演習授業を1単位(90分×8週間)受講し、保育内容についての理解、子どもの成長過程や年齢に応じた配慮などを学ぶ。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解をロールプレイやグループワークを通して理解を深める。	西野保育園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 本学教育理念及び教育方針・指針に基づき、教員養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために職員研修を実施する。  
 ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を派遣する  
 ・教育支援活動として協力いただいている企業との「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換を実施する  
 ・日常の授業、実習指導の向上を図るための教員による授業参観の開催と評価会を実施する

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 全国保育士養成協議会全国大会 平成28年8月24,25,26日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 平成28年12月20日  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 平成28年12月16日

(3) 研修等の計画  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 全国保育士養成協議会全国大会 平成29年9月1,2,3日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 平成29年8月22日  
 ② 指導力の修得・向上のための研修等  
 北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 平成29年7月21日

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行い、教育体制の強化を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 (3) 学修成果 新卒者に期待すること、求めることなどを確認し、就職指導の授業に活かしている。  
 (5) 学生支援 精神的に弱い学生が増えつつあることから、引き続きカウンセリングルームの開設、個人面談の強化を図っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鳥居敬徳	澄川ひろのぶ保育園	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等
宮崎博一	社会福祉法人楡の会	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
 URL:

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
 本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について評価委員を置き、点検及び評価を行い、その結果を公表することとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育目標、所在地、連絡先等
(2) 各学科等の教育	入学定員、カリキュラム、卒業後の進路、資格取得等
(3) 教職員	教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の取り組み状況、就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事の取り組み状況等
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置等
(8) 学校の財務	財務諸表等
(9) 学校評価	学校関係者評価の結果及び改善方策
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法  
 URL:

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			憲法	基本的人権が争点となった具体的な事例をとりあげ、日本国憲法における人権論のありようを講義するとともに、議論する。	1 後	15	1	○			○			○	
○			情報リテラシーと処理技術	Windowsの基本操作・代表的なアプリケーションソフトウェアの基本操作を学び、パソコンを利用する上で必要な知識と技術を身につける。	1 前	30	2	△	○		○			○	
○			英語コミュニケーション	日本のグローバル化に対応するコミュニケーション・ツールとしての英会話を念頭に、授業を通じて日常的レベルの英語の語感を身につけ、知識・英会話力をアップする。	1 前	15	1	○			○			○	
○			健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題と生活習慣についての関連について理解し、生涯を通じた健康づくり・体力づくりの基礎を習得する。	1 前	15	1	○			○			○	
○			スポーツ(実技)	基礎体力・運動技術・チームワーク・豊かな人間性・自主的な判断による行動・安全性の確保を養い、健康維持・増進をはかり、自己の健康を管理する能力を身につける。	1 後	30	1			○	○			○	
○			保育原理	保育の対象となる乳幼児の特徴や保育の思想・制度の発達、保育所保育指針などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を培う。	1 前	15	1	○			○			○	
○			社会福祉論	社会福祉の成り立ちを学び、現在の社会福祉のしくみについて理解し、社会福祉の存在は、自分たちと遠くかけ離れた所にあるものではないという認識を深める。	1 後	15	1	○			○			○	
○			教育原理	人間にとっての教育の意味、目指す人間像及び機能等人間と教育に関係について明らかにし、考察する。	1 前	15	1	○			○			○	
○			社会的養護	子ども・家庭を取り巻く環境について理解を深め、さらに現在の様々な社会的養護にかかわる課題とその対応、将来的な展望について考察を深める	1 前	15	1	○			○			○	
合計			科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			児童家庭福祉	現代社会における児童家庭福祉の意義、保育との関連性及び児童の人権など保育士としての基本的な知識を習得する。	1 前	15	1	○			○			○	
○			発達心理学	子どもたちの心を良く理解し、適切な保育・教育・養育・指導をするための心理学的な視点の重要性を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○			教育心理学	発達の観点から乳幼児期におけるこどもの身体的・心理的特徴について理解を深め、現代社会において必要とされる「教育」の在り方を学ぶ	1 後	30	2	○	△		○			○	
○			家庭支援論	現代家庭への理解を深め、家庭のニーズに応じた多様な支援と支援手法を学ぶ	1 後	15	1	○			○			○	
○			こどもと言葉Ⅰ	子どもがどのように言葉を獲得していくのかを学び、子どもの全体的な発達と関連させて捉えていく。言葉の獲得に必要な環境(人的・物的)についても考え、理解する	1 後	15	1	○			○			○	
○			こどもと人間関係	乳幼児期の人間関係がどのように育っていくかを学び、人と関わる力を養うために必要となる、保育・教育の実践方法や援助方法についての理解を深める。	1 後	15	1	○			○			○	
○			こどもとリズム表現Ⅰ	こどもの表現活動を理解し、それらを行う際に必要な知識と技術を習得し、発達段階にそったリズム表現方法を体験しながら学ぶ。	1 前	15	1	○			○			○	
○			こどもと音楽	音楽に関する基本的な知識や、保育の場における音楽の役割と在り方、こどもたちへの音楽指導法などを学習する。	1 前	15	1	○			○			○	
○			こどもと造形Ⅰ	幼児の造形教育の指導者として必要な造形の基礎理論を学び、実践を通して理解を深める。	1 前	15	1	○			○			○	
合計			科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			こどもと造形Ⅱ	幼児の造形活動の指導・援助に必要な造形感覚の陶冶を図り、基礎技能を習得する。	1後	15	1	○			○			○	
	○		保育実習指導Ⅰ	保育所及び児童家庭福祉施設での実習の意義や目的を理解し、実習の心構えや実習課題を明確にし、保育所や施設における保育の実際について具体的について理解する。	1前	10	0	○			○			○	
○			こども学概論	子どもの成長過程で起こるトラブルの背景にある様々な要因について、担当者の実践例等をもとに論じ、子どもの心の発達とその支援の仕方について具体的に学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
○			障がい児保育	知的障害・自閉症等主な障がいについて、基本的な理解を深めるとともに、ハンディを抱える子ども達に寄り添いながら支援する方法について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			乳幼児保育	各実習園の乳児保育の内容を検討し、人的・物的環境と子どもの育ちの関係について学ぶ。また、グループワークを通し、保育や子育ての現状について実践検討する	2後	30	2	○	△		○			○	
○			相談援助	人と環境の相互作用や援助関係の形成方法、事例分析を通じた学びと相談援助の展開過程について、基本的な視点を習得する。	2後	15	1	○			○			○	
○			こどもの保健Ⅰ	将来、保育・育児に携わる際に必要となる小児保健学（子どもの順調な成長発達、生命を守り、健康を増進する医学）の基本的知識と考え方を学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○			こどもの保健Ⅱ	疾病の異常や小児が起こしやすい症状とその援助について学び、小児の健康状態を個人の生活と保育の生活等の集団レベルで理解する。	2後	15	1	○			○			○	
○			こどもの食と栄養	栄養に関する基本的知識と食品の種類や働き、調理形態など各ステージにおける望ましい食事について学ぶ。	2後	30	2	○	△		○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会的養護内容	社会的養護の現状と課題を踏まえ、専門職の役割・期待にいかに対応していくかを考え、その実現のために学びを深める。	2 前	15	1	○			○			○	
○			こどもと健康	乳幼児の心身の健康について学び、理解を深め、さらに健康管理、安全管理、安全教育について学習する。	2 前	15	1	○			○			○	
○			こどもと環境	子どもをとりまく様々な環境について、具体的な保育場面から身につけるべき知識や技術を学習する。	2 前	15	1	○			○			○	
○			こどもと造形表現Ⅰ	幼児期における表現、感性教育の役割を理解し、幼児の造形活動を適切に豊かに展開するための知識・技術を学ぶ。	2 前	15	1	○			○			○	
○			こどもと体育Ⅰ	現代の子どもの生活リズムや体について学び、より良い心身発達の援助方法等について理解する。また子どもの成長、発達と運動の関係について理解する。	2 後	15	1	○			○			○	
	○		こどもと体育Ⅱ	実際に体育あそびを行い、その中で指導方法や子どもの運動発達について理解を深める。また、子どもの成長、発達と運動の関係について理解する。	2 後	15	1	○			○			○	
○			保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解を深める。	2 前	15	1	○			○			○	○
	○		こどもと造形表現Ⅱ	遊びと造形活動の関わりについて学ぶ。また、幼児の造形に用いられる様々な素材の特性、扱い方と活動の内容、展開の仕方について体験を通して学ぶ。	2 後	15	1	○			○			○	
○			教育課程論	教育課程に関する基本的な知識を学び、保育の専門職としての基礎を培う	2 後	15	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			教育実習事前事後指導	教育実習の基礎的事項を学び、幼児期の体験を話し合い「充実した幼児期」や「関わりあう」ことを考え、教育現場及び子どもの実態について再確認する	2前	10	0	○			○		○		
	○		教育相談	「子育て家庭・学校・地域で」共に育てる共育を目指す取組について考え、子育て支援の相談・助言の在り方、カウンセリングマインドを実践的に学ぶ。	2前	10	0	○			○		○		
○			教職論	江戸・明治時代から現在に至るまでの教職に関する規定・法律の歴史を学び、「教職」に就くために必要な資質を考察する。	2後	15	1	○			○		○		
	○		教育方法論	世界および日本の教育方法の歴史を学び、著名な教育学者とその教育方法についての知識を身につけ、知識に基づいた実践ができるようにする。	2後	15	1	○			○		○		
	○		保育相談支援	社会状保育の専門性を生かした保護者支援のあり方について、知識・技術、倫理や価値などを学ぶ。	3前	15	1		○		○		○		
○			こどもと言語表現	絵本やペープサートを作成、実践し、児童文化財と言葉の関係について学びを深める。更に、子どもと言語について学生同士がグループ討議し実践検討する。	2後	15	1	○			○		○		
	○		保育実習指導Ⅱ	保育所での具体的な学習内容の意義や目的を理解し、保育士として総合的な専門性を培い、より高い実践力を修得する。	1後	15	1	○			○		○		
	○		保育実習指導Ⅲ	施設養護の意義や目的を理解し、保育士としての総合的な専門性を培い、より高い実践力を修得する。	1後	15	1	○			○		○		
	○		こどもと音楽表現 (第1.2.3.教程)	ソルフェージュ、ピアノ演習を通して音楽の基礎的力を養い、幼児時期の音楽での保育の重要性を確認し、技術・知識を深める。	3前	30	2		○		○		○		
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			保育実習Ⅰ (保育所)	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、保育所の生活に参加することを通して、保育所の機能と運営、保育者の職務について学ぶ。	2 前	80	2			○	○		○		
○			保育実習Ⅰ (施設)	居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子ども(利用者)への理解を深め、居住型児童福祉施設等の機能と保育士の職務について学ぶ。	2 前	80	2			○	○		○		
○			保育実習Ⅱ	地域社会や家庭における子どもの生活を総合的に理解し、現代社会における保育所の役割とそこで働く保育士に期待されている職務について学ぶ。	2 前	80	2			○	○		○		
○			保育実習Ⅲ	保育実習Ⅰ(施設)を踏まえて、施設養護にたずさわる保育士としてさらに高いレベルの養護技術と知識を習得する。	3 前	80	2				○		○		
○			教育実習Ⅰ	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容及び方法について学ぶ。	3 前	80	2			○	○		○		
○			教育実習Ⅱ	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容及び方法について学びを深める。	3 前	80	2			○	○	○			
○			こどもの保健Ⅲ	こどもの保健Ⅰ・Ⅱで習得した知識を統合し、保育所、乳児院、幼稚園および児童福祉施設等保育現場において実践できる知識と技術を習熟する。	3 前	15	1			○	○		○		
○			保育実践Ⅰ (保育所)	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。	3 通	45	3			○	○		○		
○			保育実践Ⅰ (施設)	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ。	3 通	45	3			○	○		○		
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			保育実践Ⅱ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を实践し、知識を深め、技術の向上を目指す。	3通	45	3	○			○				
○			教育実践Ⅰ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。	3通	45	3	○			○				
○			教育実践Ⅱ	教育実践Ⅱを基礎とし、教育理念、教育内容や教育方法について学ぶ。	3通	45	3	○			○				
○			保育・教職実践演習	保育・教職に携わるものとしてこれまで学んできた知識を総括する。	3前	15	1	○			○				
		○	地域ボランティア	地域の児童福祉施設や社会福祉活動などへの活動を通して、教職を目指すものとしての自覚を高め、実社会の中での人間関係の構築について実践的に学ぶ。	3通	45	3	○			○	○			
		○	算数	小学校算数科の主要な単元に関する教材研究を通して、算数科の学習内容を学ぶとともに、算数科の教材研究方法を習得する。	3後	4	0	○			○				○
		○	こどもと環境Ⅱ	自分自身の生活・家庭・教育（保育）環境等を振り返る中で、子どもにとって必要な環境を学習する。	3後	15	1	○			○				○
		○	こどもと健康Ⅱ	領域「健康」の考え方、健康にかかわる子どもの生活実態について学び、理解を深める。さらに、園内の安全管理と指導・援助についても学習する。	3後	15	1	○			○				○
		○	こどもと人間関係Ⅱ	テーマ「人間関係の基礎は何か」に基づいて学生一人ひとりが考え研究し、意見交換をする中で研究内容について深める。	3後	15	1	○			○				○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
		○	発達障害児論	知的障害、広汎性発達障害、学習障害、注意／欠陥多動性障害、などを取り上げ、医学的診断、症状、支援方法、保護者・家族への支援について学習する。	3後	4	0	○			○			○		
		○	発達検査法	「発達」の基本を理解し、さらに発達検査の基本理念と検査方法について学ぶ。また、発達検査の結果や内容について保護者等への具体的説明方法を演習を通して学ぶ。	3後	30	2		○		○				○	
		○	教育制度・行政論	学校教育制度・教育行政の基本理念・体系について、日本国憲法、教育基本法、学校教育法などの教育関連法規を通して体系的に理解を深める。	3後	4	0	○			○					○
		○	教育相談の理論と方法	教育相談およびカウンセラーの意義、目的、理論背景、技法などについて理解を深め、発達年齢によって異なる心理的問題についての理解と、心理的援助の実際について学ぶ。	3後	4	0	○			○					○
		○	臨床こども学	知的には劣ってはいないが、支援を必要とする子どもについて学ぶ。不注意・注意欠陥性、衝動・多動性、自閉症、学習障害傾向にある子どもたちを正しく理解する。	3後	4	0	○			○					○
		○	こどもと造形表現Ⅲ	こどもの成長過程における多様な表現に関しての感性を育てるために幅広く表現の意義とその必要性を理解し、保育所・指導者としての知識、力を磨く。	3後	15	1		○		○					○
		○	体育理論	人体の基本的な構造及び機能について、神経、運動、呼吸器、循環系などに分けてその発達過程を理解し、健康的な身体の発達を支援する上で必要な身体運動に関する理論を学ぶ。	3後	4	0	○			○					○
		○	音楽理論	音楽学習の基礎となる音楽理論を理解し、保育や幼児教育の場で活用できる基礎的知識を学ぶ。	3後	4	0	○			○					○
		○	英語コミュニケーションⅡ	新聞などに掲載された医療・健康・科学関連の教材を通じて、トピックについて実践的な英語読解力を養成し、類推力を働かせながら重要な情報を素早く読み取る力を養成する。	3後	4	0	○			○					○
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	国語	様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げ深める。優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てる。	3後	4	0	○			○			○	
		○	生活	生活科の教育目標・内容方法について、いくつかの領域の具体例について検討することで、その理論的・実践的な理解を図る。	3後	4	0	○			○			○	
		○	こどもと言語表現	絵本やペープサートを実際に作成し実践する中で、児童文化財と言葉の関係について学びを深める。子どもと言語について学生同士がグループ討議し実践検討する。	3後	4	0	○			○			○	
○			文章基礎講座	レポート作成にむけて、文章の基礎、原稿用紙の使い方、レポートの書き方など身に付ける。さらに、基本的な文章、漢字が書けるようにする。	1前	30	2		○		○			○	
○			手芸の基礎	保育実習及び「手作りおもちゃⅠ」の講義に向け、手芸の基礎を身につけるべく、各種縫い方、ボタンの付け方等を実践し、技術を習得する。	1前	15	1		○		○			○	
○			保育所保育指針の基礎	保育所保育指針を学び、基礎的な知識を習得する。さらに、保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握する。	1前	30	2	○			○			○	
○			幼稚園教育要領の基礎	幼稚園教育要領(平成21年4月施行)について概要や内容を知り、保育を学ぶ者として必要な知識を身に付ける。	1前	30	2	○			○			○	
○			手づくりおもちゃ	実習に向け、現場での最低限の布の扱い方や縫い方を学ぶ。	1後	30	2		○		○			○	
○			幼児の音楽Ⅰ	歌、器楽合奏など通じて幅広く幼児音楽を習得する。	1通	30	2		○		○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			折紙Ⅰ	折紙の基本となる8つの基本形を習得し、身近な題材を折る。また、折り方の過程を作成し、折紙ファイルを完成する。	1前	30	2	○			○				
○			保育活動Ⅰ	保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。	1前	30	2	○			○				
○			指導計画Ⅰ	各年齢に合った保育内容の理解を深め、立案の方法を学ぶ。	1後	30	2	○			○				
○			パネルシアターⅠ	パネルシアターを製作、実践することにより、視聴覚教材の一つであるパネルシアターについて学びを深める。	1前	30	2	○			○				
○			パネルシアターⅡ	視聴覚教材の一つであるパネルシアターを製作、実践することにより、効果的な活用方法を学び、今後の実習に活かす。	1後	30	2	○			○				
○			ペン字Ⅰ	ひらがな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書の完成を目指す	1後	15	1	○			○				
○			絵本・紙芝居Ⅰ	乳幼児の発達における絵本の役割を理解し、保育現場での効果的な活用方法を学ぶ。	1後	15	1	○			○				
○			日誌指導Ⅰ	保育所実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について学ぶ。	1後	30	2	○			○				
○			ピアノⅠ	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。	1前	30	2	○			○				
合計			科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ピアノⅡ	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。初心者はいエル修了を目指す。	1 後	30	2	○			○			○	
○			折紙Ⅱ	日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。	2 後	30	2	○			○			○	
○			保育活動Ⅱ	保育所実習に向け、実際に子ども達と遊ぶ技術（手遊び、歌遊び、ゲーム、鬼ごっこ、ダンス等）や指導の仕方を身につけ、学ぶ。	2 前	15	1	○			○			○	
○			指導計画Ⅱ	各年齢に合った保育内容の理解を深め、自ら立案をする力を身に付ける	2 前	15	1	○			○			○	
○			施設実習論Ⅰ	施設実習に向けての基本的な知識と心構えを学ぶ。	2 後	15	1	○			○			○	
○			日誌指導Ⅱ	保育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	2 前	30	2	○			○			○	
○			カリキュラム立案Ⅰ	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、年齢ごとの部分案を立案する。	2 後	30	2	○			○			○	
○			エプロンシアター	教育実習（幼稚園）に向けてエプロンシアターを作る	2 後	30	2	○			○			○	
○			ピアノⅢ	ピアノⅡを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。ブルグミュラー25の練習曲の終了を目指す。	2 前	15	1	○			○			○	
合計			科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ピアノⅣ	ピアノⅢを基礎に、幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。ブルグミュラー25の練習曲終了を目指す。	2 後	30	2	○			○			○	
○			こどものうたⅠ	「あいさつ」曲からレッスン（おはよう）（おべんとう）（おかえりのうた）。等の弾きうたいが出来るようにする。	2 前	15	1	○			○			○	
○			こどものうたⅡ	こどものうたⅠを基礎に、保育者として最も必要とされる弾きうたいの技術・技能を習得する。	2 後	30	2	○			○			○	
○			介護概論Ⅰ	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身につける。	2 後	15	1	○			○			○	
○			ペン字Ⅱ	個人用の実物大手本を使用し、就職に向けての履歴書の完成を目指す	2 後	15	1	○			○			○	
○			就職指導Ⅰ	就職活動に向けての知識と就職活動のルールを学び、次年度より始まる就職に向けて意識を高め、事前準備を進める。	2 後	15	1	○			○			○	
○			日誌指導Ⅲ	教育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	2 後	30	2	○			○			○	
○			施設実習論Ⅱ	保育実習Ⅰ（施設）開始から事後までの一連の流れにおいて、必要な準備と課題、目標の設定方法、記録の書き方等要点を学ぶ。	2 前	15	1	○			○			○	
○			幼稚園教育要領	幼稚園教育要領の歴史的概観や改訂に至る背景、改訂のポイントを知る。幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学習し、幼稚園の生活・保育・教育の取り組みについて学ぶ。	3 後	30	2	○			○			○	
合計			科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			就職指導Ⅱ	就職活動に向けて具体的な試験対策（履歴書指導、面接指導、マナー等）を行い、志望先へ就職することを目指す。	3通	30	2	○			○				
○			カリキュラム立案Ⅱ	幼稚園の教育内容とデイリープログラム、各年齢に適した活動内容を理解し、立案の考え方・手順を身に付け、部分案・1日案を立案する。	3前	30	2	○			○				
○			リトミックⅠ	表現活動を行う際の保育者として必要な基礎的音楽能力を習得する。あわせて、幼稚園教育実習に向け、音楽表現の方法を体験しながら学ぶ。	3前	15	1	○			○				○
○			介護概論Ⅱ	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身に付ける。	3前	15	1	○			○				○
○			保育活動Ⅲ	幼稚園実習に向けて、各々年齢や、ねらいに基づいた活動について、実践しながら留意点などを考え、集団遊びなどの一斉活動の指導法について学ぶ。	3前	15	1	○			○				○
○			ピアノⅤ	保育の場で必要な音楽を表現豊かに演奏する技術、能力をさらに高める。	3前	15	1	○			○				○
○			ピアノⅥ	保育の現場に必要な実践的音楽技術や豊かな表現で演奏する知識を広め、能力をさらに高める。ソナチネ以上を目指す。	3後	30	2	○			○				○
○			文章表現	日ビPRにおける文章作成法指導する。その後個人の適正に合わせて作品を校正することにより、文法的にも誤りのないより明確な自己主張となる文章を作成するための技術獲得を本講義の要旨とする。	3前	15	1	○			○				○
○			保育者の心得	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深める。こどもや保護者、職員との関わりについて、演習を通して学ぶ	3後	30	2	○			○				○
合計			科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			実用心理学	保育という職業やそれに関わる人間関係などの実践に応用できる心理学の知識について、主に講義形式で学ぶ。	3後	30	2	○			○				
○			保育所保育指針	保育所保育指針を基に、現在の保育現状を把握し、深く学習することを通し、専門的知識を高める	3後	30	2	○			○				
○			こどものうたⅢ	こどものうたⅡを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（こどものうた200）を拡大する。	3前	15	1	○			○				
○			こどものうたⅣ	こどものうたⅢを基礎とし、より高度な表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー（続こどものうた200）を拡大する。	3後	30	2	○			○				
	○		障がい者福祉論	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習する。	3後	15	1	○			○				
	○		手話	手話で日常会話を学びながら、歌や劇などに応用してコミュニケーションの幅を広げる。さらに、聴覚障害者の文化や生活上の問題に触れ、誰もが平等に暮らせる社会のあり方を共に考える	3後	15	1	○			○				
	○		パソコン	効率よく操作するためにキーボードを見ずに入力できるよう練習し、実務に役立つ操作方法を実習する。	3後	15	1	○			○				
	○		保育の英会話	日本における園児の保育・教育者になることを前提として、園の日常活動に則した内容の英語表現を学ぶ。	3後	15	1	○			○				
	○		幼児の音楽Ⅱ	幼児音楽で使用されるとする楽器、歌、それらの指導法など現場対応に応じた授業を実施する。	3後	30	2	○			○				
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども未来学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		手づくり絵本	3年間学んだ集大成として、子ども達が見て触れて楽しく遊べる世界を1冊の布の絵本として表現する。	3後	30	2		○		○			○	
	○		折紙Ⅲ	折紙Ⅰ、Ⅱで習得した技術を基に平面、立体、壁面、自分の作る作品に適した手法を立案し、卒業製作を行う。	3後	30	2		○		○				○
	○		育児コミュニケーション	育児についての知識を深め、育児状況を理解した上で、保育士としての自覚を持ち子どもとの関わりを持てるようにする。	3後	60	4		○		○			○	
	○		人形劇	人形劇の作り方の基本を学び実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。卒業発表に向け、これまでの授業で学んだ実践活動を活かし、作成、発表する。	3後	60	4		○		○			○	
	○		ボランティア	福祉施設でのボランティア活動をとおして、利用者とのコミュニケーションを図る。あわせて、福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。	3後	60	4		○			○	○		
	○		オペレッタ	実践を通して感性を磨き、イメージ豊かな表現活動を目指す。卒業発表に向け、習得した実践力（ピアノ、歌、踊り、製作など）を活かし、発表する。	3後	60	4		○		○			○	
○			保育者のマナー	幼児保育・教育現場で保育者としてのマナーについて理解を深める。保護者、職員、来客等との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ	3後	30	2		○		○			○	
○			日誌指導Ⅳ	教育実習に向けて、実習日誌の記録の仕方を理解する。また、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用法について学ぶ。	3前	15	1		○		○			○	
合計					138科目		3,239単位時間( 188単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
経専北海道保育専門学校		昭和55年11月5日		中田靖泰		〒005-0004 札幌市南区澄川4条4丁目1-1 (電話) 011-812-9626																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人経専学園		昭和48年4月24日		倉田 恵		〒005-0003 札幌市南区澄川3条6丁目 (電話) 011-824-1000																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども学科		平成二十三年文部科学省 告示第百六十六号																					
学科の目的	保育・幼児教育に関する幅広い専門知識とより高い保育技術を習得させるとともに、明るく意欲的、かつ感性豊かな人間性をもち、現場に即応できる人材育成を目指す																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
	3	93単位	43単位	117単位	12単位	0単位	1単位																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
240人	165人	0人	9人	41人	50人																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学則第9条により優、良、可、不可																				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月～9月 4週以内 ■冬季:12月～1月 3週以内 ■学年末:2月授業終了から3月31日			卒業・進級 条件	学則第21条による 卒業判定会議及び進級判定会議で決定																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談実施			課外活動	■課外活動の種類 絵本読み聞かせボランティア ■サークル活動: 有																				
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 保育園、幼稚園、認定こども園、福祉施設等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 履歴書指導、個別面接指導、就職指導の授業、就職ガイダンス、就職セミナー等				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>105人</td> <td>105人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>105人</td> <td>102人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事任用資格</td> <td>①</td> <td>105人</td> <td>102人</td> </tr> <tr> <td>折紙講師資格</td> <td>②</td> <td>105人</td> <td>105人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士	①	105人	105人	幼稚園教諭二種免許	①	105人	102人	社会福祉主事任用資格	①	105人	102人	折紙講師資格	②
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
保育士	①	105人	105人																						
幼稚園教諭二種免許	①	105人	102人																						
社会福祉主事任用資格	①	105人	102人																						
折紙講師資格	②	105人	105人																						
■卒業者数 105 人 ■就職希望者数 104 人 ■就職者数 104 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 99 % ■その他 ・卒業後進学 1人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄																						
中途退学の 現状	■中途退学者 11名 平成28年4月1日時点において、在学者186名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者175名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、身体的理由等 ■中退防止・中退者支援のための取組 年度当初に目標設定し、毎週の職員会議にて情報共有、対策検討			■中退率 5.9%																					
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 入学時の奨学生試験にて3つのランクで奨学生を選出(全受験者の20%程度)特待生300,000円授業料免除、給費生150,000円授業料免除、特別推薦生100,000円授業料免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科の ホームページ URL	http:keisen-hoiku.com																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。  
②「就職」とは給料、資金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学教育理念に基づき、早期からの職業理解や目的意識を持たせるためのキャリア形成支援を職業実務の実践性を含めた多様な教育プログラムで実施する。  
 ・実践的な設備の充実と早期からの多様な実習による「基本的な知識、技能の習得」  
 ・業界講演会や卒業生による職業体験談を通しての「キャリアプランニング能力の育成」  
 ・年間2回開催する「教育課程編成委員会」によるキャリア教育における実習等の状況の振り返りと教育活動の評価・改善の実施

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は学校長のもとに位置付け、教育課程編成委員会で企業及び業界団体等の意見・助言を活かしたカリキュラムの改善を図る。決定事項は部長を通じ、教務主任から教務へと周知し教務全体で意思統一を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
前田元照	一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会 会長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	①
今野路子	こども園・ひかりのこ さっぽろ 園長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
五十嵐京湖	ふとみ保育所 園長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
鈴木 朗	経専北海道保育専門学校 部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
若松幹子	経専北海道保育専門学校 部長代理	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
沢向則子	経専北海道保育専門学校 こども学科	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
中谷摩美	経専北海道保育専門学校 こども未来学科	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成25年11月22日 14:00～15:00  
 第2回 平成26年1月24日 14:00～14:45  
 第3回 平成26年12月1日 15:00～16:00  
 第4回 平成27年6月11日 13:30～14:30  
 第5回 平成27年10月7日 13:30～14:50  
 第6回 平成28年6月28日 14:00～15:00  
 第7回 平成28年11月15日 13:30～14:30  
 第8回 平成29年7月28日 15:00～16:40

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

保育技術を応用するため、保育現場で実践する「こども演習」のカリキュラムに活用した

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育士資格及び幼稚園教諭免許に必要な知識を学ぶことはもとより、現場で活躍している講師から実際の保育現場で行われている保育内容について学び理解を深める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

保育園の園長による「保育内容総論」の演習授業を1単位(90分×8週間)受講し、保育内容についての理解、子どもの成長過程や年齢に応じた配慮などを学ぶ。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解をロールプレイやグループワークを通して理解を深める。	西野保育園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 本学教育理念及び教育方針・指針に基づき、教員養成において指導力の向上を図りキャリア教育に関する必要な知識や指導方法を習得させるために職員研修を実施する。  
 ・産業団体や協会等が開催する講演会や研修に教員を派遣する  
 ・教育支援活動として協力いただいている企業との「必要とされる専門知識・技能の習得」等についての意見交換を実施する  
 ・日常の授業、実習指導の向上を図るための教員による授業参観の開催と評価会を実施する

(2) 研修等の実績  
 ①専攻分野における実務に関する研修等  
 全国保育士養成協議会全国大会 平成28年8月24,25,26日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 平成28年12月20日  
 ②指導力の修得・向上のための研修等  
 北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 平成28年12月16日

(3) 研修等の計画  
 ①専攻分野における実務に関する研修等  
 全国保育士養成協議会全国大会 平成29年9月1,2,3日、北海道幼稚園教諭養成校協会(実習委員会) 平成29年8月22日  
 ②指導力の修得・向上のための研修等  
 北海道専修学校各種学校連合会主催教員研修 平成29年7月21日

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について、自己点検・評価はもとより、企業等、学校関係者等が評価に参画する学校関係者評価委員会を設置して客観的な点検及び評価を行い、教育体制の強化を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況  
 (3) 学修成果 新卒者に期待すること、求めることなどを確認し、就職指導の授業に活かしている。  
 (5) 学生支援 精神的に弱い学生が増えつつあることから、引き続きカウンセリングルームの開設、個人面談の強化を図っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鳥居敬徳	澄川ひろのぶ保育園	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等
宮崎博一	社会福祉法人楡の会	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
 URL:

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
 本校は、常に教育水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために授業をはじめとする教育活動や教育環境、学校運営の状況について評価委員を置き、点検及び評価を行い、その結果を公表することとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育目標、所在地、連絡先等
(2) 各学科等の教育	入学定員、カリキュラム、卒業後の進路、資格取得等
(3) 教職員	教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の取り組み状況、就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事の取り組み状況等
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置等
(8) 学校の財務	財務諸表等
(9) 学校評価	学校関係者評価の結果及び改善方策
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法  
 URL:

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			憲法	基本的人権が争点となった具体的な事例をとりあげ、日本国憲法における人権論のありようを講義するとともに、議論する。	1前	30	2	○			○			○	
	○		比較憲法	中華圏の国の憲法体制を知る。また、中国（中華人民共和国）及び台湾（中華民国）の憲法体制について学習する。	1前	30	2	○			○			○	
○			情報リテラシーと処理技術	Windowsの基本操作・代表的なアプリケーションソフトウェアの基本操作を学び、パソコンを利用する上で必要な知識と技術を身につける。	1前	30	2	△	○		○			○	
	○		英語コミュニケーション	日本のグローバル化に対応するコミュニケーション・ツールとしての英会話を念頭に、授業を通じて日常的レベルの英語の語感を身につけ、知識・英会話力をアップする。	1後	30	2		○		○			○	
○			健康科学	現代社会が抱える健康に関する諸問題と生活習慣との関連について理解し、生涯を通じた健康づくり・体力づくりの基礎を習得する。	1前	15	1	○			○			○	
○			スポーツ（実技）	基礎体力・運動技術・チームワーク・豊かな人間性・自主的な判断による行動・安全性の確保を養う。健康維持・増進をはかり、自己の健康を管理する能力を身につける。	1前	30	1			○	○			○	
○			保育原理	保育の対象となる乳幼児の特徴や保育の思想・制度の発達、保育所保育指針などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を培う。	1前	30	2	○			○			○	
○			児童家庭福祉	現代社会における児童家庭福祉の意義、保育との関連性及び児童の人権など保育士としての児童家庭福祉に関する基本的な知識の習得をする。	1後	30	2	○			○			○	
○			教育原理	人間にとっての教育の意味及び目指す人間像及び機能等人間と教育の関係について明らかにし考察する。	1後	30	2	○			○			○	
合計			科目		単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			社会福祉論	社会福祉とは何かについて、基本知識及び技術習得のための理論や歴史を概括的に学習する。	1 後	30	2	○			○			○		
	○		相談援助	人と環境の相互作用や援助関係の形成方法、事例分析を通じた学びと相談援助の展開過程について、基本的な視点を習得する。	2 後	15	1		○		○				○	
○			社会的養護	子ども・家庭を取り巻く環境について理解を深め、さらに現在の様々な社会的養護にかかわる課題とその対応、将来的な展望について考察を深める。	1 前	30	2	○			○				○	
○			保育者論	保育者に求められる資質や人間性、保育者の専門性などを考え、社会の変化の中で求められるニーズや多様化している保育の仕事および保育者の協働について学ぶ。	1 前	30	2	○			○				○	
○			保育の心理学Ⅰ	子どものかかわりについて、心理学を基礎にして考察する。子どもの発達、子どもの相互のかかわりの意味を理解し、その援助の在り方について、基礎・基本的な理解を学ぶ。	1 前	30	2	○			○				○	
○			保育の心理学Ⅱ	幼稚園、保育園における園児への発達援助、生活や遊び、発達課題の対応などをディスカッションやケースワークを通して理解する。	1 後	15	1		○		○				○	
○			こどもの保健Ⅰ	将来、保育・育児に携わる際に必要となる小児保健学（子どもの順調な成長、発達、生命を守り、健康を増進する医学）の基本的知識と考え方を学ぶ。	1 後	30	2	○			○				○	
○			こどもの保健Ⅱ	疾病の異常や小児に起こりやすい症状とその援助について学び、小児の健康状態を個人の生活と保育の生活等の集団レベルで理解する。	2 前	30	2	○			○				○	
○			こどもの保健Ⅲ	こどもの保健Ⅰ・Ⅱで習得した知識を統合し、保育所、乳児院、幼稚園および児童福祉施設等保育現場において実践できる知識と技術を習熟する。	2 前	15	1		○		○				○	
合計				科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどもの食と栄養	栄養に関する基本的知識と食品の種類や働き、調理携帯など各ステージにおける望ましい食事について学ぶ。	2通	30	2	○			○			○	
○			家庭支援論	子育て支援に対する保育所・保育者の役割が強調される中で、どのような子育て支援(家庭支援)ができるのか、あるいはすべきなのか、を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			保育課程論	記録や計画を立てるだけではなく、それが適切であるかを確かめながら保育の本質を見極めていけるようになることを学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			保育内容総論	子どもの生活と保育内容について理解し、子どもの成長過程と年齢に応じた配慮や支援について学び、保育者の役割と子ども理解を深める。	1前	15	1	○			○			○	○
○			こどもと健康	乳幼児の心身の健康について学び、理解を深め、さらに健康管理、安全管理、安全教育について、学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
○			こどもと人間関係	乳幼児期の人間関係がどのように育っていくかを学び、人と関わる力を養うために必要となる、保育・教育の実践方法や援助方法についての理解を深める。	1後	15	1	○			○			○	
○			こどもと環境	子どもをとりまく様々な環境について、具体的な保育場面から身につけるべき知識や技術を学習する。	2前	15	1	○			○			○	
○			こどもとリズム表現Ⅰ	こどもの表現活動を理解し、それらを行う際に必要な知識と技術を習得し、発達段階にそったリズム表現方法を体験しながら学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			こどもと造形表現Ⅰ	幼児期における表現、感性教育の役割を理解し、幼児の造形活動を適切に豊かに展開するための知識・技術を学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどもと言葉 I	子どもがどのように言葉を獲得していくのかを学び、子どもの全体的な発達と連動させて捉える。言葉の獲得に必要な環境（人的・物的）についても考え、理解する	1前	15	1		○		○			○	
○			乳幼児保育	保育所における乳児保育の内容について理解し、乳児の発達やあそびの重要性について学ぶ。また望ましい乳児保育の環境（人的・物的）保育内容、大人の関わりについて理解を深める。	2前	30	2		○		○				○
○			障がい児保育	知的障害・自閉症等主な障がいについて、基本的な理解を深めるとともに、ハンディを抱える子ども達に寄り添いながら支援する方法について学ぶ。	2後	30	2		○		○				○
○			社会的養護内容	社会的養護の現状と課題を踏まえ、専門職の役割・期待にいかに対応していくかを考え、その実現のために学びを深める。	1後	15	1		○		○				○
○			保育相談支援	保育相談支援の意義と原則、保護者支援の基本を理解し、子どもの健やかな育ちをめざした保護者支援の理論・技術を演習課題や事例を通して学習する。	1後	15	1		○		○				○
○			こどもと音楽	音楽に関する基本的な知識や、保育の場における音楽の役割と在り方、子どもたちへの音楽指導法などを学習する。	1前	30	2		○		○				○
○			こどもと造形 I	発達段階別の造形表現活動のあり方、成人との違い、安全指導及び造形表現領域において、保育者として必要な知識・技術を学ぶ。	1前	15	1		○		○				○
○			こどもと体育 I	現代の子どもの生活リズムや体について学び、より良い心身発達の援助方法等について理解する。また、子どもの成長、発達と運動の関係について理解する	2前	15	1	○			○				○
○			こどもと体育 II	実際に体育あそびを行い、その中で指導方法や子どもの運動発達について理解を深め、子どもの成長、発達と運動の関係について理解する。	2後	15	1		○		○				○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			保育・教職実践演習	保育・教職に携わるものとしてこれまで学んできた知識を総括する。	2 前	30	2	○			○			○	
○			ピアノⅠ	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。	1 前	15	1	○			○			○	
○			保育活動Ⅰ	保育内容を理解し、こどもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。	1 前	30	2	○			○			○	
○			絵本・紙芝居Ⅰ	保育現場における絵本の読み方や、発達段階における絵本の必要性について学習する。	1 前	15	1	○			○			○	
	○		こどもと言語表現	絵本やペープサートを実際に作成し実践する中で、児童文化財と言葉の関係について学びを深める。子どもと言語について学生同士がグループ討議し実践検討する。	1 後	15	1	○			○			○	
	○		こどもと造形Ⅱ	こどもが感じたことや考えたことを自分なりに表現し、感性、表現力、創造性を豊かにするための平面、及び立体的な表現の内容、方法について学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
○			指導計画	保育所実習に向けて保育の指導計画の基本を学び、立案の方法を理解する。更に各年齢に合った保育内容の理解を深め、立案の方法を学ぶ	1 後	15	1	○			○			○	
	○		パネルシアター	視聴覚教材であるパネルシアターを製作、実践することにより、効果的な活用方法を学ぶ。	1 前	30	2	○			○			○	
○			保育所保育指針	保育所保育指針に沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。	2 後	15	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			リトミック	歌・言葉・リズム・動き・即興演奏など、常にいろいろな方法やアイデアを工夫し、総合的に考えながら音楽表現を学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
	○		こどもと造形表現Ⅱ	幼児の造形に用いられる様々な素材の特性、扱い方、活動の内容を体験する。また、遊びと造形活動の関わりについて演習を通して学ぶ。	2 後	15	1	○			○			○	
○			ピアノⅡ	保育者として、幼児に音楽的刺激を多様な方法で与えられるよう個人レッスン形式にてピアノを使用して学び、基礎固めをする。初心者バイエル修了を目指す	1 後	15	1	○			○			○	
	○		保育活動Ⅱ	保育所実習に向け、実際に子ども達と遊ぶ技術(手遊び、歌遊び、ゲーム、鬼ごっこ、ダンス等)や指導の仕方を身につけ、学ぶ。	1 後	15	1	○			○			○	
	○		合奏指導	幼児音楽で使用されるとする楽器、歌、それらの指導法などを学ぶ。	1 通	30	2	○			○			○	
	○		保育実習Ⅰ(保育所)	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、保育所の生活に参加することを通して、保育所の機能と運営、保育者の職務について学ぶ。	1 後	80	2			○		○		○	
	○		保育実習Ⅰ(施設)	居住型児童福祉施設等の生活に参加し、こども(利用者)への理解を深め、居住型児童福祉施設等の機能と保育士の職務について学ぶ。	2 前	80	2			○		○		○	
	○		保育実習指導Ⅰ	保育実習Ⅰ(保育所及びその他の児童福祉施設等)についての事前・事後の学習をする。	1 前	30	2	○			○			○	
	○		保育実習Ⅱ(保育所)	保育実習Ⅰ(保育所)を踏まえ、地域社会や家庭における子どもの生活を総合的に理解することにより、現代社会における保育所の役割とそこで働く保育士に期待されている職務について学ぶ。	2 前	80	2			○		○		○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		保育実習Ⅲ (施設)	保育実習Ⅰ(施設)を踏まえて、施設養護にたずさわる保育士としてさらに高いレベルの養護技術と知識を習得する。	2前	80	2			○		○	○		
	○		保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅱ(保育所)についての事前・事後の学習をする。	2前	15	1		○				○		
○			保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲ(児童福祉施設等)についての事前・事後の学習をする。	2前	15	1		○					○	
○			手づくりおもちゃⅠ	布の扱い方や縫い方を実践し、技術を取得する。保育実習に向けての名札を作成する。	1通	30	2		○						○
○			折紙	日本折紙協会：折紙講師資格取得を目指す。	1後	30	2		○						○
○			施設実習論	施設実習に向けての基本的な知識と心構えを学ぶ。	2前	15	1	○							○
○			日誌指導Ⅰ	保育所実習に向けて、実習日誌の記録方法について学ぶ。また、実習における日誌の必要性について理解し、有効な活用方法について学ぶ	1後	15	1		○					○	
	○		日誌指導Ⅱ	幼稚園実習に向けて、実習日誌の記録方法を学び、実習における日誌の必要性を理解し、有効な活用方法について理解を深める。(保育士コース未開講)	2前	15	1		○					○	
○			ペン字	ひらかな、カタカナの正しい字形を会得し、実習に向けての身上書、履歴書の完成を目指す。	1前	15	1	○							○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		カリキュラム立案	カリキュラム立案の大切さを理解し、幼稚園実習に向けて、立案の考え方と手順を学習する。(保育士コース未開講)	2前	15	1		○		○				
○			ピアノⅢ	ピアノⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。	2前	15	1		○		○				○
○			ピアノⅣ	ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、演奏技術・技能を学習する。(保育士コース未開講)	2後	30	2		○		○				○
○			こどものうたⅠ	保育者として最も必要とされる弾きうたいの技術・技能を習得する。	1後	15	1		○		○				○
○			こどものうたⅡ	こどものうたⅠを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、保育者として必要とされる引きうたいの技術・技能を修得する。(保育士コース未開講)	2前	15	1		○		○				○
○			こどものうたⅢ	こどものうたⅠ・Ⅱを基礎に幼児へ幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、保育者として必要とされる引きうたいの技術・技能を修得する	2後	30	2		○		○				○
○			就職指導	就職活動に向けて具体的な試験対策(履歴書指導、面接指導、マナー等)を行い、志望先に就職することを目指す	2通	30	2		○		○				○
○			パソコン	具体的な保育事例をもとに演習を行う。デジカメ・USBメモリ・CD-ROM・プロジェクターなどの使用方法、パソコンを使用するうえでのルールとマナーを学習する。	2後	15	1		○		○				○
○			保育者の心得	幼児保育・教育現場での専門職としての役割について理解を深め、こどもや保護者、職員との関わりや社会人としてのマナーについて、演習を通して学ぶ	2後	15	1		○		○				○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどもと音楽表現	ソルフェージュ、ピアノ演習を通して音楽の基礎的力を養い、幼児時代の音楽での保育の重要性を確認する。また、技術・知識を深める。(保育士コース未開講)	2前	30	2	○			○			○	
	○		教育実習事前・事後指導	教育実習の基礎的事項を学び、幼児期の体験を話し合い「充実した幼児期」や「関わりあう」ことを考え、教育現場及び子どもの実態を再確認する(保育士コース未開講)	1後	10	0		○		○			○	
	○		教育実習	講義等で習得した知識・技術を基礎とし、子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深め、職務内容、教育理念、教育内容や教育方法について学ぶ。(保育士コース未開講)	2前	160	4			○	○			○	
	○		教育心理学	発達の観点から乳幼児期におけるこどもの身体的・心理的特徴について理解を深め、現代社会において必要とされる「教育」の在り方を学ぶ(保育士コース未開講)	1後	30	2	○			○			○	
	○		幼稚園教育要領	幼稚園教育要領の歴史的概観や改訂に至る背景、改訂のポイントを知る。幼稚園教育要領の内容について各章ごとに学習し、幼稚園の生活・保育・教育の取り組みについて学ぶ。(保育士コース未開講)	2後	30	2	○			○			○	
	○		教職論	江戸・明治時代から現在に至るまでの教職に関する規定・法律の歴史を学び、「教職」に就くために必要な資質を考察する。(保育士コース未開講)	2前	15	2	○			○			○	
	○		教育課程論	教育課程に関する基本的な知識を学び、保育の専門職としての基礎を培う。(保育士コース未開講)	2前	15	1	○			○			○	
	○		教育方法論	世界および日本の教育方法の歴史を学び、著名な教育学者とその教育方法についての知識を身につける。身に着けた知識に基づいた実践ができることを目的とする。(保育士コース未開講)	1後	15	1	○			○			○	
	○		教育相談	「子育て家庭・学校・地域で」共に育てる共育を目指す取組について考え、子育て支援の相談・助言の在り方、カウンセリングマインドを実践的に学ぶ(保育士コース未開講)	2前	8		○			○			○	
合計			科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			障がい者福祉論	福祉の援助を必要とする障がいのある方たちの具体的なニーズは何か、その受け皿となる援助制度の仕組み、事業の種類とその内容を学習する。(保育士コース必修)	2 後	15	1	○			○			○	
○			手話	手話で日常会話を学び、聴覚障害者の文化や生活上抱える問題に触れ、誰もが平等に暮らせる社会のあり方を共に考える。(保育士コース必修)	2 後	15	1		○		○				○
○			保育の英会話	日本における園児の保育・教育者になることを前提として、園の日常活動に則した内容の英語表現や、他の英語では学ぶことができない幼児言葉・わらべ歌などを身につける	2 後	15	1		○		○				○
○			保育所保育指針Ⅱ	保育所保育指針に引き続き、沿って現在の保育所・保育士の役割を学ぶ。	2 後	15	1	○			○				○
○			人形劇	人形劇の成り立ちや作成過程への理解を深め、作品や人形製作の基礎を身に付け、実践し、人形劇を発表するまでの過程を学ぶ。	2 後	60	4		○		○				○
○			オペレッタ	実践を通して感性を磨き、イメージ豊かな表現活動を目指す。卒業発表に向け、習得した実践力(ピアノ、歌、踊り、製作など)を活かし、発表する。	2 後	60	4		○		○				○
○			ボランティア	福祉施設でのボランティア活動をとおして、利用者とのコミュニケーションを図る。あわせて、福祉施設の作業内容を把握し、施設職員の役割を知る。	2 後	60	4		○		○				○
○			育児コミュニケーション	育児についての知識を深め、育児状況を理解した上で、保育士としての自覚を持ち子どもとの関わりを持てるようにする。	2 後	60	4		○		○				○
○			教育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。(保育士コース未開講)	2 通	60	4		○		○				○
合計			科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			教育実践Ⅱ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。(保育士コース未開講)	2通	60	4	○			○				
○			教育実践Ⅲ	教育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。(保育士コース未開講)	2通	30	2	○			○				
○			こどもと看護	こどもの感染症やけが及び投薬など保育士としての基本的な対応方法を学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○			○	
○			こどもと食育	こどもの離乳食やおやつなど、こどもの様々な食育活動について学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○			○	
○			赤ちゃんの発達	乳児(生後1年未満)の発達や月齢にあったかかわりやおもちゃなどについて学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○			○	
○			子育て支援	近隣の子育て家庭を学校に招き、保護者とこどもと一緒に楽しめるあそびを企画し実践。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○			○	
○			発達支援論	子どもの成長発達に関する諸問題について、その背景、対応、今後の課題、保育者の役割について学ぶ。(保育士コースのみ開講)	1後	15	1	○			○			○	
○			手作り教材	幼児の造形に用いられる様々な素材の特性、扱い方と活動の内容、展開の仕方について体験を通して学ぶ。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○			○	
○			ピアノⅤ	幼児に幅広い音楽活動と、豊かな表現力を与えられるよう、より高度な演奏技術・技能を学習する。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○			○	
合計			科目	単位時間( 単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			こどものうたⅣ	より豊かな表現力を習得し、保育の場で必要なこどものうたの弾きうたいのレパートリー(続こどものうた200)を拡大する。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○				
○			介護概論	介護について理解を深めると共に、介護を行う為に必要な知識を身につける。(保育士コースのみ開講)	2後	15	1	○			○				
○			保育演習Ⅰ	講義や演習で習得した知識・技術を基礎とし、保育者の職務内容について実践的に学ぶ。(保育士コースのみ開講)	1通	60	4	○			○				
○			保育演習Ⅱ	講義で習得した知識を基礎とし、様々な福祉施設の機能や役割などについて学ぶ(保育士コースのみ開講)	2後	30	2	○			○				
○			保育演習Ⅲ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。(保育士コースのみ開講)	2後	30	2	○			○				
○			保育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。	1後	30	2	○			○				
○			保育実践Ⅱ	保育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。	2後	30	2	○			○				
○			保育実践Ⅲ	保育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。	2後	30	3	○			○				
○			教育実践Ⅰ	講義や演習を通して習得した知識・技術の基礎を実践し、知識を深め、技術の向上を目指す。(保育士・幼稚園教諭コースのみ開講)	2通	60	4	○			○				
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			教育実践Ⅱ	教育実践Ⅰを基礎とし、こどもへの理解を深め、保育者の職務について実践的に学ぶ。(保育士・幼稚園教諭コースのみ開講)	2 通	60	4	○			○		○		
○			教育実践Ⅲ	教育実践Ⅰ・Ⅱを通して習得した知識・技術を実践し、保育者としての資質の向上に努める。(保育士・幼稚園教諭コースのみ開講)	2 通	30	2	○			○		○		
合計				107科目				2,984単位時間(			171単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。